

2022年2月25日

【談話】

怒りをもってロシアのウクライナ侵攻に抗議する

日本原水爆被害者団体協議会

事務局長 木戸 季市

ロシアのウクライナ侵攻に接し怒りに震えています。

侵攻は事実上の開戦ではないでしょうか。真珠湾奇襲攻撃が思い出されます。

国土を廃墟とした戦争、そして広島・長崎への原爆投下。

被爆者として許せないことは、プーチン大統領が核兵器国であることを誇示し、核兵器で威嚇していることです。

5歳被爆の記憶でも、閃光と爆風で何もかも無くなった黒い街、道に転がり川に積み重なった死体、水を求める人の姿を忘れることはできません。ロシアの行為は、広島・長崎を繰り返し「ふたたび被爆者をつくる」ことそのものです。

日本被団協は結成宣言で、被爆者は「自らを救うとともに、私たちの体験をとおして人類の危機を救おうという決意」を誓い、今日まで核兵器のない世界を実現するために生きてきました。

今回のロシアの侵攻は、被爆者の願いを踏みにじり、人類を危険にさらす行為です。即刻、やめることを求めます。